

信用金庫の存在意義

信金中央金庫 地域・中小企業研究所長

松崎 英一

平成26年6月に地域・中小企業研究所長に就任し1年半余りが過ぎた。この間、全国各地の信用金庫で講演をさせていただいたり、中小企業を訪問し、経営者の方に現場の実情についてお話しを聞かせていただいたりした。特に、中小企業の経営者から伺った話は、信用金庫業界で働く身として真摯に受け止めなければならないことが多かった。そのいくつかをこの場で紹介したい。

まず、信用金庫の支援を得て、自らの夢であった自転車店開業を実現した方から伺った話である。

その経営者は、高校生の頃からマウンテンバイクの魅力にとりつかれ、30歳を前に創業を試みる。高校卒業後に地元の自転車店で就業した経験があったので、商品知識や仕入れルートについては精通していたものの、事業計画の策定、開業資金の調達等については不慣れなため、信用金庫に相談することにした。相談を受けた信用金庫は、商工会議所主催の創業塾の受講を勧めるとともに、地方自治体の創業制度融資を紹介し、資金繰りは信用金庫が対応することになった。参入した分野が高級自転車であったこともあり、量販店が取り扱う普及品との差別化を図れたことで、創業後5年間、業績は順調に推移している。

創業間もない頃から頻繁に信用金庫を訪問し、現在でも担当の職員は、時間をかけて専用のブルーファイルをもとに相談に乗ってくれるそうで、信用金庫に提出するために作成した資料が経営管理上のベースになっていると話されていた。信用金庫に対して感謝の意を表すその経営者と話をしながら、信用金庫の職員の対応がどれだけ孤独な経営者の支えになっているのかと考えさせられた。起業するにあたって、親身に相談に応じてくれる信用金庫があったからこそ夢を実現できたという言葉が印象に残った。

次に、東京の大学を卒業後、都内の企業に就職し、約10年後に地元の町にUターンして、会社を創業した方から伺った話である。

彼は、就職活動にあたって、地元の魅力ある仕事がないと考え、東京の企業への就職を選択する。しかし、人とのつながりが会社関係くらいしかなく、東京に「住んで、働いていた」のかもしれないが、「暮らす」という感覚を得られないまま時が過ぎ、今から6年前に東京から遠く離れた中山間地域の故郷に帰る決断を下した。

彼が地元に戻り周囲を見ると、自分のやりたいことを仕事にして生き生きと暮らしている人たちがたくさんいることに気づく。そして彼は、地元で新たな仕事を創り出す人たちにインタビ

ューし、その内容を1冊の本に編集して地元の出版社から発刊した。

また、彼自身も、中小企業の支援を目的としたWEBマーケティングや地域を応援するクラウドファンディングの運営等を行う会社を設立した。さらに最近では、古民家を改装したシェアオフィスの運営管理を地方自治体から受託し、新事業の立上げを目指すUターン・Iターン創業希望者のための受け皿作りに取り組んでいる。

現在、2つの事務所を構え営業を行っている。今年度にオープンした2つめの事務所については、自らが運営管理を受託しているシェアオフィスに入居し、その入居資金等は信用金庫から資金調達した。彼によると銀行から資金を調達するか信用金庫から調達するか迷っていたところ、信用金庫の職員が頻繁に同社を訪ね親身に相談に応じてくれたことが契機となったそうである。

最後に、東日本大震災の被災地で再生可能エネルギー事業に取り組んでいる方から伺った話である。

その温泉地は、震災が起きる前は多くの宿泊客が訪れていたが、地震の影響で建物が倒壊するなど壊滅的な被害を受け、廃業に追い込まれた旅館が多数発生し、地域全体が危機に直面することになった。

そこで、地元資本が地域を再生するために会社を設立し、その中核的な事業として温泉を活用した地熱発電所と周辺を流れる川の水を利用した小水力発電所の建設・運営に取り組むことになった。しかし、発電事業の立上げには行政機関からの許認可取得など多くのハードルが存在し、当初の予定から大幅に遅れることになる。資金調達面においても、公的機関の保証を取り付けるための手続きが難航したが、信用金庫が事業可能性についての的確に審査するとともに、地元の震災復興に向けての決意と住民の熱意に押され融資実行を決断し、その結果、公的保証を受けられることになって、ようやく発電事業がスタートできることになった。さらに、地熱発電所から発生する発電後の冷却水を利用した新規ビジネスの研究も進められており、地域の再生に向けた取組みは着実に進展している。

3人の経営者の方にお会いして感じたことは、夢を事業として実現したい人、事業を通じて地域を活性化させたい人たちを金融面で支援することが信用金庫の存在意義ではないかということだった。最近では、金融だけでなく、情報提供、販路開拓、経営相談など信用金庫に求められる役割が広がっている。

今回紹介させていただいた事例は、ほんの一部に過ぎず、全国の信用金庫で同様の取組みが行われている。当研究所では、これからも信金中金月報等を通じて、志を持った地域関係者や中小企業者、そのような方たちを応援する信用金庫の取組みを紹介していきたい。